

Title	デジタルサイネージを使用したアート鑑賞支援するための作品感想共有システムのデザイン
Sub Title	Enhancing art awareness and appreciation with comment sharing through networked digital signage
Author	馬, 佳妮(Ma, Jiani) 中村, 伊知哉(Nakamura, Ichiya)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、アート鑑賞をより豊かにすることを目標に、鑑賞者が感想などを投稿し、公開、共有する鑑賞支援のデジタルサイネージシステムをデザインする。また、生活と密着した都市の中に鑑賞の場を広げ、「どこでも、いつでも、だれでも」という新たなアート鑑賞支援を目指す。アート・デジタルサイネージを使って、作品を鑑賞しながら、感想を積極的に共有する経験は、能動的に鑑賞できる。他の鑑賞者と共有することによって、さまざまな着眼点から鑑賞する経験は、調査対象は作品と向き合い、それとの対話を公開し、違う視点から行なわれた鑑賞である。さらに、デジタルサイネージの汎用性によって、普段、美術館やミュージアムなどに足を運ばない人でも、都市空間でアート鑑賞ができる。本論文では、鑑賞経験の乏しい鑑賞者を対象とし、アート・デジタルサイネージのプロトタイプとアート・デジタルサイネージによって人々が得られる経験を、ユーザーを対象に行った参与観察と質的データ分析法によって評価する。
Notes	修士学位論文. 2010年度メディアデザイン学 第112号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002010-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2010 年度（平成 22 年）

デジタルサイネージを使用した
アート鑑賞支援のための
作品感想共有システムのデザイン

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

馬 佳妮

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士（メディアデザイン学）授与の要件として提出した修士論文である。

馬 佳妮

審査委員：

中村 伊知哉 教授（主指導員）

稲蔭 正彦 教授（副指導員）

杉浦 一徳 教授（副指導員）

デジタルサイネージを使用した アート鑑賞支援のための 作品感想共有システムのデザイン*

馬 佳妮

論文要旨

本研究は、アート鑑賞をより豊かにすることを目標に、鑑賞者が感想などを投稿し、公開、共有する鑑賞支援のデジタルサイネージシステムをデザインする。また、生活と密着した都市の中に鑑賞の場を広げ、「どこでも、いつでも、だれでも」という新たなアート鑑賞支援を目指す。アート・デジタルサイネージを使って、作品を鑑賞しながら、感想を積極的に共有する経験は、能動的に鑑賞できる。他の鑑賞者と共有することによって、さまざまな着眼点から鑑賞する経験は、調査対象は作品と向き合い、それとの対話を公開し、違う視点から行なわれた鑑賞である。さらに、デジタルサイネージの汎用性によって、普段、美術館やミュージアムなどに足を運ばない人でも、都市空間でアート鑑賞ができる。本論文では、鑑賞経験の乏しい鑑賞者を対象とし、アート・デジタルサイネージのプロトタイプとアート・デジタルサイネージによって人々が得られる経験を、ユーザーを対象に行った参与観察と質的データ分析法によって評価する。

キーワード

アート、作品鑑賞、感想共有、デジタルサイネージ、屋外

*慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 修士論文 2010 年度（平成 22 年）

Enhancing Art Awareness and Appreciation with Comment Sharing through Networked Digital Signage*

Jiani Ma

Abstract

Art and the appreciation of art, is often limited as appreciation is defined by one's own life experience. This developing research by proposes that Art Digital Signage can be used to cultivate understanding and deepen appreciation for works of art. And “Anywhere Anytime Anyone”, a new-styled art appreciation. By using Art Digital Signage, viewers can also see the information and comments related to the artwork at the same time in the networked digital signage. Through both input and output of ideas and thoughts from each other, viewers can re-discover, share and deepen their appreciation for individual artwork. The system will expand the casual opportunities for general users to see digital art works, and change the paradigm of art appreciation from teaching and memorizing to thinking and finding oneself through communication. Another point is with digital signage, modern digital arts can pop into our lives in everywhere of public urban spaces. The target audience is not the typical art aficionado, but rather individuals who have minimal experience of art appreciation. And this paper present Art Digital Signage service to enhance art awareness and appreciation of the Art Digital Signage prototype.

Keywords:

Art, Art appreciation, Comment Sharing, Digital Signage, Outdoor

* Master's Thesis, Graduate School of Media Design, Keio University, Year 2010